

科目名称：	乳児保育演習Ⅱ	
担当者名：	米川 祥子、酢谷 温子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>現代の日本の文化環境下にあつて、出産・子育てが大きな課題となっている。とりわけ乳児保育は、個人と社会・文化の接点として重要な位置を占めるがゆえに、社会の要請も極めて高いものとなっている。</p> <p>本授業では、前期の「乳児保育演習Ⅰ」「乳児保育研究Ⅰ」「乳児保育実習Ⅰ」をもとに、乳児保育についての知識や実践力を高める。具体的には、保育実践者を招いての講義や乳児保育の課題について演習を通して考える。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●0・1・2歳時の保育実践を理解する。 ●子ども・保護者・保育者それぞれの立場で成長を理解しようとする姿勢を身につける。 ●乳児保育担当者を目指す者としての自覚をもつ。 		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)			60	40	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（米川）臨床心理士（幼児相談）	《経験年数1》 14年
	《内容2》（酢谷）保育士	《経験年数2》 34年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーション(授業の進め方説明)	シラバスを読んでおく	10分
第2回 文献購読「乳児保育の基本となる考え方」	1年次「乳児保育I」のノートを見返しておく	10分
第3回 乳児保育で大切にしていること(現職保育者講話)	前回のレポートの確認	10分
第4回 乳児保育で大切にしていること(現職保育者講話)	乳児保育で大切にしていることのレポート作成	30分
第5回 講話のふり返り(グループディスカッション含む)	前回のレポートを見返しておく	10分
第6回 “泣き”への対応を考える(グループディスカッション含む)	前期現場参加のレポートを見返しておく	10分
第7回 “泣き”への対応を考える(グループディスカッション含む)	前期現場参加のレポートを見返しておく	10分
第8回 自分の保育観を見つめる(省察の必要性に気づく)(グループディスカッション含む)	自分の保育観を見つめる(省察の必要性に気づく)についてレポート作成	30分
第9回 自分の保育観を見つめる(省察の必要性に気づく)(グループディスカッション含む)	自分の保育観を見つめる(省察の必要性に気づく)レポート作成	30分
第10回 「食指導について」(管理栄養士講話)	食指導についてのレポート作成	30分
第11回 「食指導について」(管理栄養士講話)	食指導についてのレポート作成	30分
第12回 「保育現場の子育て支援について」(現職保育者講話)	保育現場の子育て支援についてについてレポート作成	30分
第13回 「保育現場の子育て支援について」(現職保育者講話)	保育現場の子育て支援についてについてレポート作成	30分
第14回 「連絡帳について」(グループディスカッション含む)	連絡帳についてのレポート作成	30分
第15回 乳児保育者として大切に思うこと(保育観)まとめ	これまでのレポートを見返しておく	10分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 授業への積極的関与40% 提出物60%		
課題に対するフィードバック		
各課題に対して、その都度コメントシートでフィードバックする。 最終課題は、希望者には返却する。		
教科書・参考書		
<教科書> 「乳児の発達と保育」 エイデル研究所 「はじめて学ぶ乳児保育」 同文書院		